

### 令和3年度 新所沢東まちづくりセンター 公民館講座報告

新所沢東公民館では年間を通じて行われるサロン事業（高齢者対象の「いきいきサロン」、お子さんとママの「子育てサロン」、妊娠中の方の「マタニティサロン」）の他に、専門の講師の方をお招きしての講座を開催しています。

令和3年度開催分の一部をご紹介します。

#### ひがしスペシャルママ企画

子育て中の方が、元気で笑顔になれる講座を実施しています。令和3年度は、「季節の寄せ植え」、「リンパ体操」、「クリスマスリースづくり」などを開催しました。



▲寄せ植え講座

#### 「勇気づけの子育て」講座



生涯学習推進センターと共催で、アドラー心理学を用いた全4回の子育て講座を開催しました。

#### 歴史講座 「武田信玄と北条氏康」



武田信玄生誕500年・北条氏康没後450年を記念し、NHK大河ドラマ「真田丸」で時代考証を担当された黒田基樹先生を講師に歴史講座を開催しました。

#### なつやすみ子どもひろば



▲陶芸体験

夏休みに小学生を対象に、日頃体験しないような陶芸体験など5教室を開催。



### 【しんとこイーストネット主催事業】

#### 高齢者いたわり部会 とこしゃん体操 開催予定

日程	会場
4月8日(金)、5月13日(金)	ラーク所沢 原則第2金曜 ※室内履きをお持ちください
4月22日(金)、5月27日(金)	新所沢東まちづくりセンター 原則第4金曜

とこしゃん体操は所沢市独自の健康体操です。1回約10分の体操で座ったままでも行えます。

【時間】午前9時30分～10時45分

【持ち物】運動しやすい服装・運動靴（室内履き）・水分補給用の飲み物

【問合せ】しんとこイーストネット高齢者いたわり部会

原 部会長：TEL 04-2942-3741 佐久目 副部会長：TEL 04-2993-3054



### これからの“しんとこ東”を創造する ～令和3年度振り返り～

令和3年度にお話をいただいた方々の内容を振り返り、改めて新所沢東地区の現状と課題を整理し、今後の地区について考えます。（振り返り担当：「東の社教主事Aっち」）

#### (1) 地区の将来を担っていく若者の「地域への帰属意識」とつどえる場

新成人代表の藤井さん、行田さんからは、①若者の地域への帰属意識の低さ、②若者が気軽につどえる場を地域に増やすことの大きく2点が課題として挙がりました。

⇒中学生までは生活圏が新所沢東地区内でも、高校生以降は徐々に地区外で過ごす時間が増え、自身が住む地域に対する関心が薄まる可能性があります。地域の将来を担っていく若者が、同地区と長く関わりを持ち続けるために、まずは同世代の仲間同士が気軽につどえる場が必要との意見が非常に印象に残りました。若い世代が地域内でつながりを作り、維持し続けられる環境をどう確保するのが重要なカギとなります。

#### (2) コロナの影響で加速した住民の孤立にどう向き合うか

地域包括支援センター清水センター長からは、近所や地域との交流を持ちづらいつの増加、孤立死についての言及がありました。また、台湾出身の佐藤さんからは、コロナ禍でのご自身の体験を通して、家族や地域の方との助け合いの大切さを改めて認識したと、お話の中で強調されていました。

⇒コロナの影響で近所や地域との関わりが少なくなりつつある中、若い人も含め住民1人1人が近所と適度な距離感でお互いに見守りをしたり、いかにして地域とつながりたりできるかが重要との清水センター長のお話は、様々な価値観を持つ住民がいる中で実践するのは容易ではないと思います。だからこそ、どうやって地域としてこの課題を乗り越えていくか、知恵を出しあい工夫して取り組む必要があると思います。

#### (3) 伝統を守りつつ、新たな取組も活かして地域の活性化を目指す

スポーツ協会新所沢東支部須藤支部長からは、歴代住民の方々が築いてこられた伝統を守りつつ、新たな取組を取り入れて地域を活性化したいというお話がありました。また、小中学生のお子さんがある齋藤さんは、コロナの影響で多数の学校行事が中止になり、（また地域でも行事がなくなり）子どもたちは常に我慢が続いている現状を語られていました。

⇒どのような形式であればコロナの影響があっても地域行事を開催できるか、取組を見直したり知恵をしばったりする動きが当地区に限らず他地域でも行われています。現状できないことは多くとも、これから先どんな取組ができるのか模索し、何かとりあえず地域として形にしてみることが閉塞感のあるこの時代を打破する一つのきっかけとなると考えます。

#### (4) 「地区全体で子どもたちを育てる」という地域へ

学習塾の塾長をされている本橋さんから、時代の変化に伴い、以前よりも地区の子どもの数は減少するとともに親同士が交流する機会や助け合える環境が少なくなっているとのお話がありました。

⇒子育てをする親も地域で成長していく子どもも家族以外にあまり頼れる人がいない環境に置かれてしまっている現状は、長い目で見ると結果的に(1)、(2)で指摘されていることにつながる可能性があります。「子育て」を通じたつながりづくりに、地域で改めて着目して取り組んでいけると、今後、地区内の様々な課題を解決していくための糸口がつかめるかもしれません。



▲東の社教主事Aっち